



金屋町通信

発行元：
金屋町まちづくり協議会
発行・編集 責任者：
般若慎一郎

金屋学講座～金屋の鋳物師継承事業

3月4日（土）19：00～金屋町公民館において

演題：用具から観るものづくりの心

講師：富山大学芸文学部准教授 清水克朗さん

2011年1月に鋳物資料館の収蔵資料1,561点が国の有形民族文化財に登録されましたが、実は登録申請に必要となる



収蔵物の詳細な台帳作りの作業を行ったのが清水先生です。その後も、追加して寄贈された収蔵物を含めて再調査の作業が続けられています。2011年の金屋町開町400年記念の年から、ふいご祭りで鋳造実演をするようになりましたが、400年の時に鋳造した御神鏡は清水先生が製作しました。

また清水先生は、1995年から1997年にかけて第37次日本南極越冬隊に参加したという経験もあります。聴講自由です、多数のご来場をお待ちします。

人口急減社会に対応！ 連携中枢都市圏形成記念セミナー

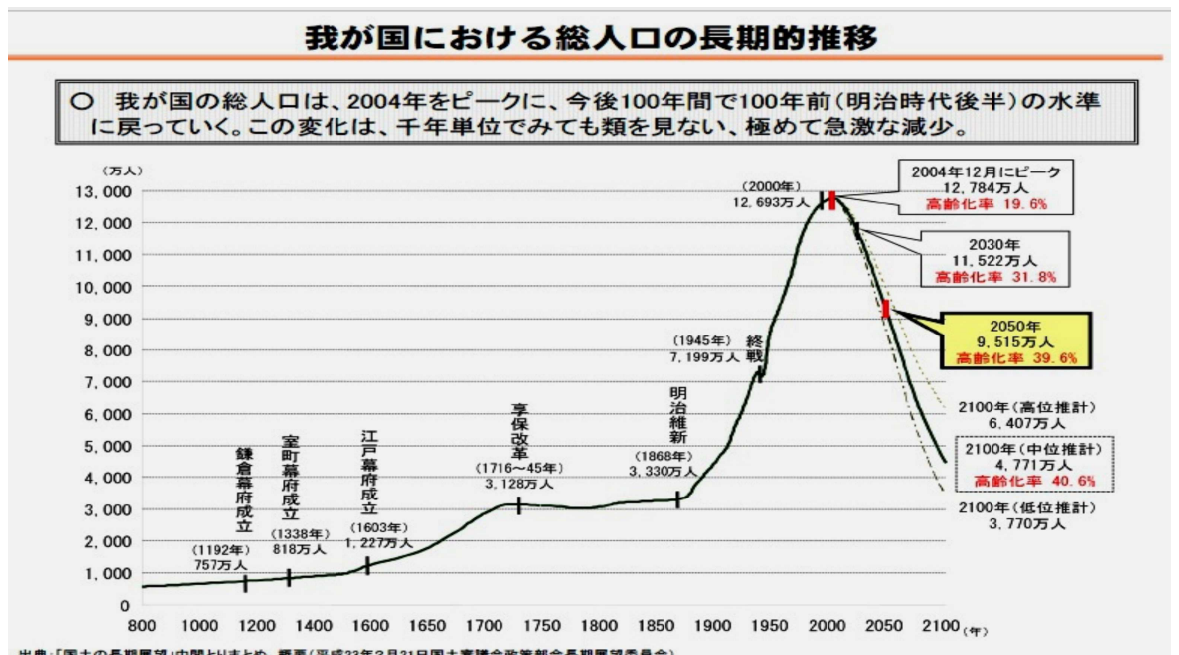
機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成するための政策です。

平成28年4月1日の連携中枢都市圏構想推進要綱の改正により、特例として「隣接する2つの市を合わせて1つの連携中枢都市とみなす」要件が追加され、高岡市と射水市を合わせて1つ

平成27年8月、県西部6市において「富山県西部圏域連携都市圏」の形成宣言をしました。そして平成28年10月には「とやま呉西圏域都市圏ビジョン」を策定しました。そのようなタイミングを記念して、2月1日にセミナーが開催されました。

連携中枢都市圏構想とは、急激に進行する人口減少と少子高齢社会に対応していくために、地域において相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市

の連携中枢都市とみなして、連携中枢都市圏と認められたものです。そのことによって連携して進める各種政策に国の財政支援を得ることが



できます。

わが国の人口は、1億2千万人から2050年には1億人を割り、2100年には5千万人弱まで減少すると予測されています。高岡市は17万人から2040年には13万人弱へ、呉西6市の合計は46万人弱から2040年には33万人へと減少が予測されています。そんな時代になっても活力を維持していくために今から連携して対応していこうという訳です。

今年生まれる子や孫は2100年に83才になります。私達自身はその頃にはいないとしても、子や孫にとって大変な時代が来ようとしているのですから、決して他人事ではありません、今から真剣に対策を講じていかななくてはならない重大問題なのです。

鍋祭り 怪魚ハンタートークショー

鍋祭りに合わせて高岡駅地下B1ステージにおいて、Uターンして高岡でユニークな仕事をしている二人の若者、怪魚ハンターと呼ばれる小塚拓矢さんとオマツアー・トヤマ代表の尾間俊雄さんのトークショーが開催されました。



特に怪魚の小塚さんに興味を持って話を聞いてきました。「魚釣りが大好きで一生懸命に遊んでいたら、就職している暇が無かった。気づいたら、怪魚ハンターという職業名をつけられていた」「富山の魚は大変おいしいが、おいしいのであぐらをかいていると感じる。例えば神

経絞めとか、更においしく提供するために出来る事が沢山ある」「遠方から来客があった時に、番屋街とかきときと市場とかへは連れて行かない。その裏にある漁港の食堂が良い」「裏金沢としての高岡が良い。パクリが出来ない本物の伝統工芸が高岡の凄いところ」「外国人観光客にとっては瑞龍寺より東大寺、高岡大仏より奈良や鎌倉の大仏が優先されるのは当たり前。素の高岡が良いので、ことさら盛り上げなくていい。高岡が東京になったら、誰も来ない」等々、若者らしい活きの良い言葉がポンポンと飛び出していました。

文化財防火デー 特別消防訓練



1月22日 午前10時から約1時間、金屋町一帯で消防訓練が行なわれました。今回は自治会役員や自衛消防隊による消火や救助の訓練だけでなく、住民多数が参加し地震災害を想定して避難訓練を行いました。

この日の避難訓練では便宜的に高岡金網駐車場などを使いましたが、大地震等の災害時に金屋町住民の一時避難場所は西高校グラウンド、指定避難所は西条小学校です。いざという時に備えて、この種の訓練は毎年行ないたいものですね。

1月の金屋町自治会拡大会議要点

- ・文化財防火デー消防訓練と住民避難訓練について、消防署が住民向けに事前説明
- ・定例総会の議案事前確認
- ・その他